

## 2016 年度 入学 試験 問題

# 国 語

(試験時間 15:00~16:00 60分)

1. 解答用紙には、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
2. 解答は、必ず解答欄に記入およびマークしてください。解答欄以外への記入およびマークは無効となりますので注意してください。
3. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。
4. 解答用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。また、マーク解答用紙を記述解答用紙の下敷きを使用しないでください。
5. 解答用紙には、必ず受験番号と氏名を記入およびマークしてください。
6. マーク解答用紙への受験番号の記入およびマークは、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。

一次の文章を読んで、後の問に答えなさい。(50点)

すべての時代、すべての社会は、それぞれ典型的な学問を持っている。ある時代、ある社会において学問の原型とせられるものが何か、ということは、その時代なり社会なりの人生と世界に対する根本的な価値決定に依存している。従って、逆に、そうした中心的学問分野の移動によって、人間の生活態度そのものの変転を知ることが出来る。この意味において、福沢諭吉の提示した学問と生活の結びつきかたの「革命」性は福沢がいかなる学問をもって典型的学問の「原型」と為したかを見、これを封建的旧体制下におけるそれと対比させることによって、なにより、明らかとなる。

福沢は自伝の中でこういつている。

「古来、東洋西洋相対して其進歩の前後遅速を見れば、實に大造な相違である。双方共々に道德の教へもあり、經濟の議論もあり、文に武におの／＼長所短所ありながら、扱、國勢の大体より見れば富國強兵、最大多数最大幸福の一段に至れば、東洋國は西洋國の下に居らねばならぬ。國勢の如何は果して國民の教育より来るものとすれば、双方の教育法に相違がなくてはならぬ。ソコで、東洋の儒教主義と西洋の文明主義と比較して見るに、東洋になきものは、有形に於て数学と、無形に於て獨立心と此二点である。

……近く論ずれば、今の所謂立國の有らん限り、遠く思へば人類のあらん限り、人間万事、数理の外に逸することは叶はず、獨立の外に依る所なしと云ふ可き此大切なる一義を、我日本國では軽く視てある。是れでは差向き國を開いて西洋諸強國と肩を並べることは出来さうにもない。全く漢学教育の罪である」(傍点筆者)

つまり彼は東洋社会の停滞性の秘密を数理的認識と獨立精神の二者の欠如のうちに探り当てたのである。この二者が相互に如何に関連するかということは行論のうちには明らかにならう。差し当りここでの問題はヨーロッパ的学問の核心を「数学」に見出したということである。数学と彼が言っているのは、厳密にいうと近世の数学的物理学、つまりニュートンの大成した力学体系を指す。これは福沢においていわば学問の学問であり、あらゆる学問の基底であり、予備学であった。「我が慶應義塾に於

て初学を導くに専ら物理学を以てして恰も諸科の予備と爲す」(物理学之要用)。ところでこれに対して封建的旧体制において学問の中核的地位を占めたのは何であるかといえ、いうまでもなく修身齊家の学、すなわち倫理学である。そこでは学とは「教へ」であり、教養が学の本来的であり方である。そうしてその「教へ」はすぐれて、「道」の教えにほかならぬ。

「道学」が一切の学問の根本であり他の一切の学問は「道」を求めるといふ目的に奉仕する限りにおいて存立を許容される。かくして、宋学なり古学なり、心学なり、水戸学なりの「実学」から、福沢の「実学」への飛躍は、そこでの中核的学問領域の推移から見ると実に倫理学より物理学への転回として現われるのである。

学問の中心的地位を倫理学より物理学へ移したということは、しかるは何を意味するであろうか。それは決して、人生と世界の中心価値を精神より物質へ置きかえたという様な卑俗な「唯物」主義でないのはむろんのこと、単に学問的関心の重点を人倫ないし社会関係から自然界に移したというふうにも理解されてはならない。封建的旧体制の学問にもそれなりに形而上学もあれば自然科学もある。「二本草の理を窮める」とは朱子学者の好んで口にするところであった。他方福沢の学問的対象が人文科学よりもヨリ多く自然科学に向けられたとは何人も思わない。むしろ福沢が高く掲げた「独立自尊」の旗幟はほかならぬ倫理の問題であつた。福沢の晩年に、彼の門下が独立自尊主義を要約した二十九条の綱領は、彼の指示によって「修身要領」と名づけられたのである。福沢にとっては、我が國の近代化の課題はなによりも文明の「精神」の把握の問題として捉えられた。「文明の外形」たる物質文明の採用に汲々として、「文明の精神をば捨て、問は」ざる当時の文明開化の風潮に対する警告こそが、まさに「文明論之概略」の根本動機ではなかつたか。物理学を学問の原型に置いたことは、「倫理」と「精神」の軽視ではなくして、逆に、新たな倫理と精神の確立の前提なのである。彼の関心を惹いたのは、自然科学それ自体ないしそのもたらした諸結果よりもむしろ、根本的には近代の自然科学を産み出す様な人間精神の在り方であつた。その同じ人間精神がまさに近代的な倫理なり政治なり経済なり芸術なりの基底に流れているのである。「倫理」の実学と「物理」の実学との対立はかくして、根底的には、東洋的な道学を産む所の「精神」と近代の数学的物理学を産む所の「精神」との対立に帰着するわけである。

封建的旧体制の学問において倫理学が学問の原型をなしたということは、前述した様に、そこで、自然認識が欠如もしくは稀

薄であつた事を意味するものではなかつた。問題はそうした自然が倫理価値と離れ難く結びついており、自然現象のなかに絶えず倫理的な価値判断が持ち込まれるという点にあるのである。自然は人間に対立する、外部的なものではなくして、むしろ本質的に精神的なものと考えられる。そうして自然が精神化される事は同時に精神が対象化によって自然化され、客観的自然界のうち離れ難く編み込まれる結果をもたらすのである。このことを徳川時代の著名な学者の叙述を二つ挙げて例示して見よう。

「天ハヲノツカラ上ニアリ、地ハヲノツカラ下ニアリ。已ニ上下位サダマルトキハ、上ハタツトク下ハイヤシ。自然ノ理ノ序アルトコロハ此上下ヲ見テシルベシ。人ノ心モ又カクノゴトシ。上下タガハズ貴賤ミダレザルトキハ人倫タマシ。人倫タマシケレバ國家ヲサマル」(林羅山、經典題説)

「礼の本源をいはゞ、天高く地ひきくして各その位あり。日月星辰より風雨霜雪草木禽獸等の万物にいたるまで、各々その形色をあらはし、各其分限かはり、各時節の序あり。是天地万物の上に自然に各高下次第品節わかれたり。即是天地の礼なり。聖人これに法とりて礼を作り給へり。礼は序を以て主とすればなり」(貞原益軒、五常訓)

この二つの言説をひきくらべると、論述のはこび方の著しい類似性が容易に感知されるであらう。そこで意図されているのは、共に上下貴賤の差別に基づく社会的秩序の基礎づけであり、その基礎づけが共に自然界からのアナロジー(類推、類比)においてなされている。社会的秩序は自然現象の間に見出される整合性との対応のうちにその正当性の根拠を持つている。それは自然の秩序に相即するがゆえに、まさに自然的秩序と観ぜられるのである。しかも重視されねばならぬのは、かくの如く、社会秩序を基礎づけるべき「自然」のうちに実は社会の秩序的価値を最初から忍び込ませていることである。天は高く地は低いことが天地の秩序を成している。故に、人間もこれと同じく上下貴賤の関係において結びつく時にのみ正しい秩序が保たれる、という論理は、天地を上下関係と見る自然認識の素朴性を全然度外視しても、空間的な意味での上下関係をそのまま価値的な上下(貴賤)関係として妥当させる事によつてのみ可能となる。社会的位階観を通じて捉えられた自然によつて、ほかならぬ社会的位階が基礎されている。この同語反復が同語反復として自覚されないという事がなにより、こうした倫理を成立させている社会関係とそこでの人間意識の特質を示しているのである。

だから、(3)。アナロジ―は通例、類比されるもの相互の異質性が、使用者に意識されているのに、上の場合では、むしろ自然と社会、自然法則と人間の規範との間に明確な一線が画されず、むしろ逆にある根源的な共通性が前提されているのである。両者はなにか本来的に一なるもの、現象的な分化にはかならぬ。社会秩序と自然界との相互的な補強は、この両者の基底にある根源的なもの、媒介によって可能となるのである。これがすなわちみち、(道)と呼ばれるものである。自然に行われる「道」(天道)と人間関係を支配する「道」(人道)との本質的な同一性の意識が位階的な社会関係の支柱であり、さればこそそうした社会関係の下に生み出される学問は必然的に「道」学たらざるをえないのである。

この意味において、かかる道学の代表としての儒教、なかならずそれを最も理論的に整備した宋学の思惟方法には、封建的旧体制下の人間と社会と自然の在り方が浮彫うきぼりにされている。すなわち、儒教における天人合一は、宋学において、太極理によって根拠づけられ、この太極によって人間と社会と自然はただ一すじに貫通されている。宇宙秩序を究極的に成立せしめる天理(天道)が人間性に内在しては本然の性となり、社会秩序に対象化されては君臣・父子・夫婦・兄弟・朋友の「倫」となる。従ってそうした社会的秩序の根本規範は人間性に先天的に内在するものであるから人間の本来的なあり方はそうした客観的所与としての社会秩序(4)にキエひする以外にはありえない。他方、そうした社会秩序は宇宙的世界に連なる事によって永遠の循環のうち再生産される。人間は社会に繫縛けいばくされ、社会は自然に繫縛される。しかもその三者を貫く太極ないし天理は「誠は天の道なり」といわれる如く、実に、誠という倫理性を本来的に賦与されているのである。これは自然と人間を貫くいわば根源的倫理性である。従って、一木一草の理をきわめるといふ自然探究も畢竟「一物おのおの一太極を具そとふ」るが故に意義づけられる。つまり自然的事物のなかに、内在する根源的倫理性を認識することによって、人間関係を規律する倫理(仁義礼智信)の先天的妥当性を一層確認することが、そこでの自然探究の目的であり、又それ以外であってはならぬ。人間の価値から独立した純粋に外的な客観的自然というものは成立の地盤がないのである。「物理」は「道理」としてのみ自らをケンケン(5)する。

身分的な位階関係が全社会を貫徹しているところでは、人間は生れ落ちた時から既に一定の社会的位置を指定されて居り、その環境は彼にとって運命的なものにまで固定化される。すべての人間が彼にとっての先天的な位置を「分限」として、遵守する

事が、全社会秩序の安定性の基礎である。生活は伝統と因習の單純なる再生産であり、まさに四季の如く循環的である。ここでは社会は人間によって主体的に担われているのではなくして逆に、所与としての社会秩序への依存性が人間の本来的なあり方である。そうした先天的環境への依存が「価値」であり、それからの離脱がすなわち反価値にほかならぬ。従つて、一切のイデオロギーは畢竟「貧福ともに天命なればこの身のまゝにて足ることの教へ」(石田梅岩)たらざるをえない。こうした社会体制の下、一定の社会関係の枠の中に生長した人間に、社会秩序と自然秩序の自同性の意識がはぐくまれるのはあまりにも当然といわねばならぬ。その反面彼は彼に与えられた社会的規定(家老であるとか、足軽であるとか、百姓であるとか、町人であるとか)と共にあり、それを離れては存在しないのであるから、個人が社会的環境を離れて直接自然と向い合うという意識は成熟しない事も了承に難くないのである。人間が己れをとりまく社会的環境との乖離を自覚したとき、彼ははじめて無媒介に客観的自然と対決している自分を見出す。社会からの個人の独立は同時に社会からの自然の独立であり、客観的自自然、一切の主観的価値移入を除去した純粹に外的な自然の成立を意味する。環境に対する主体性を自覚した精神がはじめと、「法則」を「規範」から分離し、「物理」を「道理」の支配から解放するのである。

福沢が「物ありて然る後に倫あるなり、倫ありて然る後に物を生ずるに非ず。オクダンを以て先づ物の倫を説き、其倫に由て物理を害する勿れ」(文明論之概略)と断じたとき、それが思想的に如何に画期的な意味を持つていたかといふことは、以上の簡単な叙述からも理解されるであろう。彼は社会秩序の先天性をフッシュヨクし去ることによつて「物理」の客観的独立性を確保したのであった。上の言は直接には、君臣の倫を先天的とする宋学理論に対する駁撃を目標としているのであるが、それはつまり「物理」精神の誕生が、身分的階層秩序への反逆なくしては可能でない事が福沢において明白に自覚されていたからであつた。彼が独立自由の精神と数学物理学の形成とをヨーロッパ文明の核心と考へたといふ事は、いかに彼が近代精神の構造に対するトウテツした洞察を持つていたかを如実に示証している。

(丸山眞男「福沢に於ける『実学』の転回」による)

注 宋学……宋代に成立した新しい儒学の総称。狭義には「朱子学」を意味する。

イデオロギ……思想体系、思想傾向、

考え方の意。

〔問一〕 傍線(1)「これは福沢においていわば学問の学問であり、あらゆる学問の基礎であり、予備学であった」とあるが、なぜか。その理由としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 物理学は、自然科学の基礎となる学問であり、科学技術の発展の土台となるものだから。
- B 物理学を学ぶことによって、近代の社会や文化の根底にある精神を知ることができるから。
- C 物理学から生まれた発明や発見は、自然科学だけでなく、人文科学の基礎にもなっているから。
- D 物理学は、自然の秩序だけでなく、自然の秩序に即した社会のあるべき姿を知る上でも不可欠の学問だから。
- E 他の学問よりも物理学を先に学べば、自ずと自然と社会に共通する道理に目を向けるようになるから。

〔問二〕 傍線(2)「近代的自然科学を産み出す様な人間精神の在り方」とはどのようなことか。「社会秩序」、「自然的所与」、「人為的所産」、「無批判」、「批判的」という五つの語句を用いて、五十字以内で説明しなさい。(句読点は一字に数える)

〔問三〕 空欄(3)に入れるのもつとも適當なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 社会秩序を自然現象からのアナロジーにおいて基礎づけていたということは、誰も否定しえない事実である
- B 社会秩序を自然現象からのアナロジーにおいて基礎づけていたのは、封建的旧体制下の倫理学だけではない
- C 社会秩序を自然現象からのアナロジーにおいて基礎づけていたのではなく、自然現象を社会秩序からのアナロジーにおいて基礎づけていたというべきである

D 社会秩序を自然現象からのアナロジーにおいて基礎づけるふりをしながら、実は近代精神の成立を妨げていたことになる

E 社会秩序を自然現象からのアナロジーにおいて基礎づけるといういい方も実はこうした論理を正確に表現したものはいえない

〔問四〕 傍線(4)(5)(6)(7)(9)のカタカナを漢字に改めなさい。(楷書で正確に書くこと)

〔問五〕 傍線(8)「物理」精神の誕生が、身分的階層秩序への反逆なくしては可能でない」とあるが、なぜか。本文の主旨に従ってその理由としてもつとも適當なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 環境に対する主体性を自覚した精神がはじめて、「物理」を「道理」の支配から解放するから。
- B 西欧の学問は、封建的旧体制下では身分的階層秩序を揺るがす危険な思想として禁止されていたから。
- C 独立自由の精神は、「物理」精神が成立することなしには決して芽生えることがないから。
- D 「物理」精神は、君臣の倫を先天的とする宋学理論に対する駁撃を目標として誕生したものだから。
- E 「物理」精神は、福沢諭吉にとって思想的に画期的な意味を持つものだから。

〔問六〕 次の文ア、イオについて、本文の主旨と合致しているものに対してはA、合致していないものに対してはBの符号で答えなさい。

ア 身分制が貫徹されている社会的環境の中で生まれ育つと、人はその秩序や規範をいつまでも変えることのない自然の理と思い込んでしまう。

イ 人は、例えば旅に出たりすることで生まれ育つた故郷から離れると、無媒介に客観的自然と対決している自分を見出すことができる。

ウ 東洋の社会が停滞したのは、自然に目を向けずに、ひたすら倫理の探求にいきこんでいたからであり、福沢はそうした状態から抜け出すために、物理学をあらゆる学問の基礎として推奨した。

エ 西欧近代の物理学も、自然法則を規範として探求するという点では、一木一草の理を究めることを重視する東洋の倫理学と変わるところはない。

オ 封建的旧体制下の倫理学は、既存の社会秩序を正当化し、伝統と因習を再生産し続けるように促すイデオロギーである。

二 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。(20点)

例1 「先生の講義は、堅い話が多くて具体例が少なく、あまり興味がわきませんでした。きつとみんなそう感じていたと思います」

例2 「さまざまな具体例をあげながら、学問的な視点からわかりやすく解説してくれました。多くの人が満足していたと思います」

まるで正反対の評価だが、どちらも私の同じ講義に対する学生の感想である。もちろん、個人的な興味や基準があるのだから、私の講義をわかりやすいと感じるかどうか、具体例が多いか少ないかなどは、学生によって評価がまちまちになって当然だ。ここで問題にしたいのは、「他の学生たちがどう感じているか」という推論の部分なのである。どちらの学生も、自分が感じたように他の人たちも感じていると決めつけている。思わず「ほら、全員の感想を見てごらんよ」と言いたくなってしまうのである。社会心理学では、(1) を、総意誤認効果と呼んでいる。たとえば、タバコが好きなのは、タバコが嫌いな人に比べて、より多くの人間がタバコ好きだと推測しやすい。注意していただきたいのは、必ずしも「タバコ好きが過半数いる」と判断するわけではないし、本当のタバコ好きの人口よりも高い見積もりをするということでもないことだ。タバコ好きの推定する「タバコ好き人口」の値がタバコ嫌いの推定する「タバコ好き人口」の値よりも大きくなるということである。

いかにも、よくありそうな話なので、自分の講義で実験してみたことがある。私は、講義の出欠をとって成績に加味するかどうかを、年度の初めに学生の多数決で決めることがよくあった。そのとき一度「全体で何パーセントくらいの人が、出欠をとることに賛成すると思うか」を推定してもらったのである。結果はやはり、自分は賛成という人たちの推定する「賛成率」の平均が、自分は反対という人たちの推定する「賛成率」の平均を大きく上回っていた。反対者の回答用紙には、ていねいにも「ゼロ・パーセントに決まっている。賛成するヤツがいるはずがない」と書いてあるものもあった。

実際の賛成率がどうであったかという集計を学生に見せると、かなり驕然となる。読者の方々は、どれくらいの学生が出欠を

とってほしいと言うと推測するだろうか。その講義ではもとより、私がこれまで三〇回くらい行った採決の中で、出欠をとることが否決されたことは、たったの二回しかないのである。多いときには、九割以上の学生が出欠をとることに賛成する。

社会的な関係の中での推論というのは、さまざまなバイアスをもっている。こうしたバイアスが生まれるのは、私たち人間が基本的に自分の(2)を満たしたいと思っているからではないだろうか。私たちは自分が愚かであるとは思いたくない。自分の意見が正しいという傍証の一つは、それがより多くの人々に支持されているということだ。あるいは、権威ある人が同じ意見をもっているということだ。だから、私たちはつい同じ態度をもった人につき合うようになるし、新聞や雑誌で自分の意見に近い論説のほうを好んで読むようになる。こうなると、ますます世の中の意見は自分に近いと思ひ込んでしまう。

価値判断的な要素がはいったときには、このバイアスはより極端な形で現れる。アメリカの高校生に対する大規模な調査の結果によると、自分のリーダーシップを平均以上と考えている生徒は七〇%もいる。反面、平均以下と考えている生徒はわずか二%である。他者とうまくやっていく能力については、自分が上位一〇%以内にはいると思っている生徒が六〇%、上位一%にはいると思っている生徒が二五%もいるのである。大学教授を対象にした別の調査では、九四%の教授が自分は同僚より有能であると考えているという。

自分の都合の良いように推論して、(2)を維持するというのは、必ずしも悪いことばかりではない。客観的な評価を常に突きつけられて信じ込まされたなら、自信を失って、商売がえしてしまう大学教授も少なくないかもしれない。自分に対する甘めの評価が、精神的安定や意欲を生むという面は無視できない。逆に、日本の子どもの場合、幼い頃から集団内での厳しい評価を受けているためか、自信も夢も失ってしまいがちなところがあるというのは、国際比較の調査で話題になるほどである。問題なのは、能力の過大評価のために自分の失敗を外的な要因に帰属してしまって、努力へと結びつかない場合だろう。

さらに、まったく同じ情報を与えられた場合に、自分にとって都合の悪い情報に対しては、「信頼するに足らない情報である」という厳しい目で見てしまうという研究結果がある。社会心理学者のロードたちの研究がそれである。彼らは、死刑を廃止すべきか存続すべきかという意見によって、被験者を二群に分けた。どちらの群の被験者にも、死刑が犯罪を防止する効果があると

いう調査報告と、そのような効果はないという調査報告の両方を読んでもらう。すると、(3)。被験者たちは、自分がかじめもっている主張と反対の報告に対しては方法論的な欠点をいくつも指摘する一方、主張を支持する報告は良い研究であると評価する。最終的には、むしろ自分の主張をますます強めてしまったというのである。

自分とは反対の意見やデータに対して、その不備を指摘するときの人間の意欲と能力はすごいものがある。これはゼミや学会でもよくお目にかかる光景である。それらの批判には、あげ足とりに近いものもあるが、実に鋭い指摘になっていて、再考を促されるものもある。私は学生に、内輪のゼミや研究会でできるだけ多くの反論や批判を受けておくことをすすめる。それによって自信や意欲をそがれてしまうと困るのだが、批判にさらされておくことは、一歩外に出たときの学会の討論や論文の投稿の準備として必ずプラスになる。つまり、ついつい自分の判断や意見に甘くなってしまうがちな傾向を、前もってお互いにチェックできるのである。

〔市川伸一「考えることの科学」による〕

〔問一〕 空欄(1)に入れるのにもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 自分の意識を多数派だと誤って認識すること
- B 他者の評価を自分の評価と同じと判断して疑わないこと
- C 自分の判断が全体的な傾向に合致すると予測してしまうこと
- D 他者の意見の分布を自分の意見に引き寄せて推測してしまうこと
- E 自分の考えと同じ意見の他者を実際より多く見積もってしまうこと

〔問二〕 空欄(2)に入れるのにもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 充足感
- B 多数派意識
- C 正当性
- D 自己評価
- E 自尊感情

〔問三〕 空欄(3)に入れるのもっとも適當なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 被験者はどう変化したろうか。中には反対の立場に考えを変える人もいた
- B 被験者の考えはより中立的なものになるだろうか。実験の結果は全く逆であった
- C 被験者たちは人によって、調査報告を読んで影響される人とそうでない人がいた
- D 自分の主張と違う調査報告は読もうとしない被験者が大半を占めるという結果になった
- E 両方の報告を詳しく読んで、自分の主張を吟味し、より精緻なものにしていったのである

〔問四〕 次の文ア～オについて、本文の主旨と合致しているものに対してはA、合致していないものに対してはBの符号で答えなさい。

- A 物事の評価が人によって違うのは当然である。しかし、多数の人がある考えを正しいとしていることを知ると、他の人もその意見に同調し、ますますその考えを主張する人が増える。
- イ 喫煙者は、「タバコを吸うと太らない」という説を信じやすく、「喫煙は肺ガンを引き起こしやすい」という説を受け入れようとしなない。これは、自分の考えが誤っている可能性に気づいていても、それを認めることを恐れるためである。
- ウ 集団内の自分の位置を推測するとき、自説が多数派と考えたがる人は多い。それは、多くの人が支持する説が正しい説だということ仮定しているからである。
- エ 私たちは自分の考えに合っていることや、自分に都合の良いことに向かって積極的に情報収集をし、都合の悪いことは無視しがちなものである。そうすることによって、いつそう自分の説の正しさを信ずるようになるのである。
- オ 人は、誰でも自分の能力を高く見積もる傾向がある。そのために、何か失敗しても自分の能力不足以外の原因を求めたりするのである。

三 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。(30点)

ところせき園の中つくろひたてん、かひはなきものから、望の夜の月を宿さんばかりの露の置きどころなくてやはあらん、さればとて、おほやけだちて、をのこなど召し入れてせきすべきならねば、いでや、いましたち、長き日の目覚ましぐさに、かりそめなるふし垣結ひたてよ、萩すきもて来て植え並べよなど、<sup>(2)</sup>上のたまはするに、<sup>(3)</sup>はやりたる若き女房たちなれば、いみじう羨みまげて、いでいとそそめきたち、足はむかももまでかき出だし、手はただむきまでまくり上げて走り下りぬ。萩・すすき・をみなへし・きちかう・紫苑・藤袴など、<sup>(1)</sup>かたみに担ひもて来て植うるに、すすきは高やかなれば後さまに掘り入れよ、きちかうはひきらかなれば前なるぞよき、<sup>(5)</sup>さし過ぎたるかなたの枝そげよ、しほみつきたる下葉摘み捨てよなどのたまひおきて給ふ。広からぬ御園の中に<sup>(6)</sup>ここの花ども植えわたしたれば、みるみる秋の野をここもとに移し来ぬるやうにて、いみじう清らになまめかしきことたぐひなし。上もいたう喜ばせ給ひて、いましたちがいたつきつくろひたてざらましかば、かうおもしろう作りえましやは、かくてこそ (7) のためよきおもて起こしなれとのたまへば、みな、<sup>(8)</sup>いかで、<sup>(9)</sup>いかでとかしこまりをり。かくするほど、雨にはかに降り出でたり。これ、いかにせん、いかにせんと騒ぎわびまどふ。白きもの付きたる顔に雨のかかりてとところろ落ちたるが、雪のむら消えたるやうにてなまめかしきに、ぬれたる衣のひしと付きて、あらはに透きとほりたるはだへの色合ひなどもいとらうたし。

(本間游清『雑詠百首歌』による)

注 ふし垣……柴で編んだ垣根。

きちかう……キキヨウ。

〔問二〕 傍線(4)「かたみに」、(5)「さし過ぎたる」、(6)「こころの」の意味としてもっとも適当なものをそれぞれA、B、C、Dの中から

選び、符号で答えなさい。

(4) かたみに

- |   |        |
|---|--------|
| A | 片手で    |
| B | ふたりで   |
| C | 体が傾くほど |
| D | かわるがわる |

(5) さし過ぎたる

- |   |         |
|---|---------|
| A | 太すぎる    |
| B | 変形している  |
| C | 伸びすぎている |
| D | 混みすぎている |

(6) こころの

- |   |           |
|---|-----------|
| A | この時期の     |
| B | このあたりの    |
| C | これくらい     |
| D | こんなになくさんの |

〔問二〕 傍線(1)「せさすべきならねば」の品詞構成としてもつとも適當なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞＋助詞
- B 動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞
- C 助動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞
- D 動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞
- E 助動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞

〔問三〕 傍線(2)「上ののたまはするに」とあるが、その内容はどこから始まるか。もつとも適當なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A ところせき
- B かひはなきものから
- C 望の夜の月を
- D さればとて
- E いでや、いましたち

〔問四〕 傍線(3)「はやりたる若き女房たちなれば」とあるが、同意の「はやる」が含まれているものを一つ左の中から選び、符号で答えなさい。

- A なべてよの花の心やはやるらんみかきのさくらけふさかりなり
- B いそがくれかきはやれどももしほ草たちくる浪にあらはれやせん
- C 花のかを風のたよりにたくへてぞうぐひすきそふしるべにはやる
- D ここやかしこにて曲をし、人を慰めけるほどに、猿楽とてはやりけり
- E 堀川摂政のはやりたまひし時に、この東三条殿は御官どもとどめられさせたまひて

〔問五〕 空欄(7)に入る一語を本文中から探し、そのまま書きなさい。

〔問六〕 傍線(8)「いかで、いかでとかしこまりをり」についての説明としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 思いがけない提案に対して、どうしたらよいのだろうと思案にくれている様子を表現している。
- B 過分なほめ言葉をかけてもらって、そんなことはありませんと恐縮している様子を表現している。
- C 未完成なのにこれでよしとする発言に対して、どうにかして完成させようと意気込む様子を表現している。
- D 一度は喜んだもののまだ不満げな様子に対して、どういうわけなんだろうと困惑している様子を表現している。
- E 自分たちの健康を気遣うやさしい発言に対して、大丈夫ですと作業継続を承知するけなげな様子を表現している。

〔問七〕 傍線(9)「白きもの」とは何のことか。もっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 汗
- B 土
- C 白粉かしら
- D 花粉
- E すすきの種